

図書館だより

令和元年12月



令和元年の1冊は？

先月は読書週間でしたが、どんな本を読みましたか？素敵な本との出会いはありましたか？令和元年もあと少し。心に残る本と出会えた年になっていたらいいなあと思います。

朝読書のときは、教室には文化委員が用意した学級文庫もありますが、自分の読みたい本をなるべく用意しましょう。

新刊が入りました！298冊

〈今日はコミックを紹介します〉



「夢印」

浦沢直樹

浦沢直樹×ルーヴル美術館
プロジェクト！！
ある一つの家族。
ある一枚の絵。
ある一人の謎の男。

図書支援員森田さんおすすめの本



おはなし会で読まれた本



「夜明けの図書館」

埜納タオ

図書館で働く新米司書・ひなこ。日々、利用者からはいろいろな質問が……。疑問に対し、適切な資料を紹介するのも図書館の仕事。ひなこ、迷宮入りしそうな利用者の「？」に立ち向かいいます。

新感覚、ライブラリーコミック！

戦争についての本は、たくさんありますが、どれか一冊をと問われたら、今の私はこの本を選びます。

広島の原爆によって、むごい別れを強いられた父と娘の物語です。井上ひさしは、劇作家でもあるので、このお話は宮沢りえが娘役をした、二人芝居としても有名です。1945年8月6日午前8時15分。一瞬のむごい別れに言いたいことがたくさんあったに違いない……。生き残った娘に限りなく優しい亡くなった父。最後の娘の広島言葉がとても美しいです。

3年国語の教科書「握手」の作者です。

同じ著者が書いた「少年口伝隊一九四五」「一週間」もあわせて読んでみてほしいです。

